

B. 各支部から

長崎県支部の活動状況

前 長崎県小児保健協会支部長

長崎大学小児科

松 本 正

日本小児保健協会における長崎県のかかわりは古く、設立当初から長崎医科大学小児科の平井金三郎教授が評議員となっている。戦後の再発足時には和泉成之教授が理事を務め、1957年（昭和32年）には長崎県小児保健研究会（日本小児保健協会長崎県支部）が発足し、長崎県支部の設立は日本で5番目であった。2003年（平成15年）から私が支部長を引き継いだ。この間、1976年（昭和51年）には浅野清治先生、1995年（平成7年）には辻 芳郎先生が会頭となり日本小児保健学会学術集会在長崎市で開催された。

子どもは成長・発達し続けるものだが、その健やかな発達のためには環境の影響が大きいことは言うまでもない。しかし、近年の核家族化・少子化・メディアの氾濫・受験戦争など、子どもを取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。そのため、子育て困難・虐待・不登校・子どもによる犯罪の増加などさまざまな問題が生じている。最近になり、エンゼルプラン、「健やか親子21」など国も少子化対策に乗り出し、長崎県でも、長崎県の「健やか親子21」が推進され、次世代育成支援対策行動計画案が策定されている。このような現況を鑑みて長崎県下の子どもにかかわるさまざまな職種が集まり、情報を交換し、切磋琢磨して子どもの健康と福祉を推進すべく、2004年8月に長崎県小児保健協会を設立し、第1回の長崎県小児保健学会を開催した。

本協会（支部）の活動は主に年1回の学会、会誌発行および活動助成金よりなり、これらの活動は理事会・総会の議決をもって決定される。理事は15名

長崎県小児保健協会
〒852-8501 長崎県長崎市坂本町1-7-1
長崎大学病院小児科医局内

で構成され、行政（県子ども政策局、教育庁）、小児科教授、県の医師会・歯科医師会・看護協会・助産師会・保健師会・栄養士会・保育士会・幼稚園連合会・心理士会・保健所長会の各代表および日本小児保健協会長崎県評議員より構成される。

本協会の会員数は約100名であり、毎年の学会の参加人数は100~200名である。会員・参加者の職種はさまざまであり、その年のテーマにより職種別の参加者数はやや変動すると思われる。ちなみに職種別の会員数および本年の学会参加者数（前が会員で後が参加者、ともに%）を以下に示す。医師・歯科医師（38, 20）、看護師（8, 17）、保健師（12, 17）、助産師（4, 4）、栄養士（5, 3）、心理士（2, 2）、理学・作業・音楽・言語療法士（3, 9）、保育士（13, 15）、教諭・養護教諭（10, 3）、行政（2, 3）、その他である。過去7回の学会のテーマを表に示す。今後も小児保健活動を発展させることを望んでいるが、財政的な問題も課題の1つである。

表

	特別講演	シンポジウム
第1回	長崎県の健やか親子21 (行政)	発達障害児への アプローチ
第2回	母子間コミュニケーション	発達障害児への アプローチ (2)
第3回	食育	食育
第4回	長崎県の子育て支援 (行政)	乳幼児期の育児支援
第5回	こころの健康	特別支援教育
第6回	あたたかい心	乳幼児期の療育
第7回	集団感染予防対策	障害受容支援